



筆
元天龍寺管長 叱咤室 関牧翁老大師
〔明治三十六年～平成三年〕

〔百年三万六千日
　　弥勒も夢観音も亦た夢
　　仏云く心に是の如し觀を作すべし
　　沢庵野老筆を援き卒わる」と書くと、
　　筆を放り投げて亡くなつたという。〕

實相寺花園会報

平成三十年
十二月一日発行
発行所
臨済宗妙心寺派
陽明山 實相寺
實相寺花園会
〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL087-889-3838
編集発行人
山本文匡
<http://www.jissouji.net>

第116号

沢庵漬けで有名な沢庵禪師は、その臨終の際、弟子達に遺偈を求められて

「夢」と一字を大書し、その横に小さく

「百年三万六千日
　　弥勒観音是非幾ばくぞ
　　是も亦た夢非も亦た夢

　　弥勒も夢観音も亦た夢
　　仏云く心に是の如し觀を作すべし
　　沢庵野老筆を援き卒わる」と書くと、
　　筆を放り投げて亡くなつたという。

今年もあとわずか、今この時を大切に。

達磨忌・秋季壇信徒総供養

昨年は先住遷化のため中止しましたが、11月23日午前10時より達磨忌・秋季壇信徒総供養を営んだところ、部内寺院8名、会員35名のお参りを頂きまして、近年高齢化のため参加者が減少していますが、欠席でも塔婆供養は申し込みます。お盆と共に春秋の施餓鬼・達磨忌でも是非ご先祖の供養を。



各種お知らせ

「在宅での看取り」公開セミナー

12月16日13時～14時30分

丸亀町商店街カルチャールーム

(三)越南の壱番館東館4階

右記の通り、認定NPO法人グリーフワークかがわが主催する公開セミナーが行われます。講師は美術館北通り診療所の医師、瀬尾憲正先生です。

住み慣れた環境（自宅）で暮らし続けて「終末期」ではなく「終生期」を生きるためにのお話です。参加費五百円
除夜の鐘・修正会
12月31日は、23時30分より除夜の鐘を撞き始め、年始のお勤め「修正会」は1日午前0時より行います。旧年の厄を落とし、新年を新たな気持ちで迎える行事です。是非ご参加下さい。

「信」何を信じるのか⑤

明治時代、当時国交の無かつたチベットに単身命懸けで渡り、貴重な原典の経典を持ち帰った河口慧海（1866～1945）という日本人僧侶がいます。この河口慧海師が持ち帰った『入菩薩行』という論には次のような教えがあります。

「凶暴な者は、虚空と同じく無限にいる。そのすべてを抑えることなど、できるはずもない。だが、この憤る心を制すれば、敵をすべて屈服させたようなものだ。大地を皮で覆いつくすにも、それだけの皮がどこにあるというのか。だが、私の靴の底に革を貼れば、大地をすつかり皮で覆つたのと同じだ。

すなわち、外界のできごとは私の手で

人一人が心を平和に保ち、冷静であることが求められるのではないでしようか。そして何もこれは外交問題だけに限つた話ではありません。人と人の関係性においても同様です。詳細は不明ですが、つい最近も家族間でのトラブルからと思われる悲惨な一家6人殺人事件がありました。様々なストレスに満ち溢れた現代社会では、誰もがイライラしがちですが、在するのではなく、内なる怒りや貪る心、道理をわきまえぬ愚痴の心なのです。

来たるべき新年をより良い一年にする為にも、静かに坐つて今年一年を振り返り、心に平和を取り戻しましょう。（終）

は抑えられない。だが、自分の心を抑えてしまえば、他に抑えるべきものはなくなる。」

（『菩薩を生きる 入菩薩行論』

シャーンティデーヴァ著、寺島のぶ子訳、バベルプレス、2011年

この教えが示唆しているのは、たとえ世界中の争い全てをなくすことができないとしても、自分の心を平和に保つことの大切さと、私達がコントロール出来るのは自分自身の心だけだということです。昨今はアメリカをはじめ世界各国で自由中心主義が台頭しつつありますが、それぞれが自分の利益ばかりを主張していくのでは争いが無くならないことは明白です。この様な状況だからこそ、私達一

年忌法要早見表

平成三十一年に年忌法事があたつてているのは左記の年に亡くなつた方々です。ご予定の方はお早めにご相談下さい。

一周忌	平成三十年
三回忌	平成二十五年
七回忌	平成二十九年
十三回忌	平成十九年
十七回忌	平成十五年
二十五回忌	平成七年
三十二回忌	昭和六十一年
五十四回忌	昭和四十五年